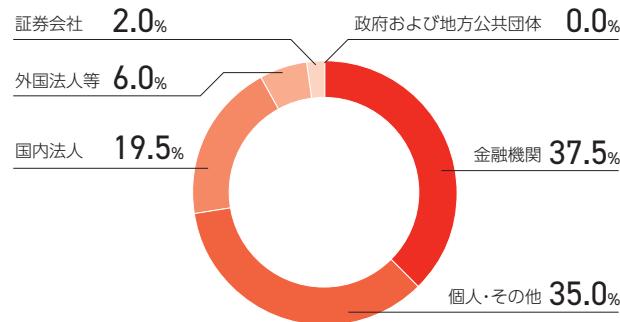


株式の状況 (2025年3月31日現在)

発行可能株式総数	80,000,000株
発行済株式の総数	24,050,000株
単元株式数	100株
株主数	32,261名

所有者別株式分布状況 (2025年3月31日現在)



役員 (2025年6月27日現在)

取締役		監査役	
代表取締役兼社長執行役員	金子 洋文	常勤監査役(社外)*	岩村 伸一
取締役兼執行役員	岡本 英夫	監査役(社外)*	三田村 玲子
取締役兼執行役員	高橋 茂信	監査役	青木 章哲
取締役兼執行役員	中津 隆一	執行役員	
取締役(社外)*	村山 由香里	執行役員	山口 容史
取締役(社外)*	藤原 康弘	執行役員	小川 文生
取締役(社外)*	佐藤 晴俊	執行役員	天内 心
		執行役員	引地 智則
		執行役員	小石 裕一
		執行役員	後藤 彰

*を付した役員は東京証券取引所に独立役員として届け出ております。

株主の皆さまの声をお聞かせください / **コエキク**

右記URLにアクセスいただき、アクセス入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。

<https://koekiku.jp>

スマートフォンからカメラ機能でQRコードを読み取りアンケートにお答えいただけます。

※アンケートは、株式会社アロケキクスの提供する「コエキク」サービスにより実施いたします。アンケートの取扱いについては「コエキク」のプライバシーポリシーをご覧ください。

大株主 (2025年3月31日現在)

株主名	所有株式数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	2,779	11.6
みずほ信託銀行(株)退職給付信託 丸紅口 再信託受託者 (株)日本カストディ銀行	1,997	8.3
(株)日本カストディ銀行(信託口)	1,107	4.6
日油(株)	915	3.8
みずほ信託銀行(株)退職給付信託 みずほ銀行口 再信託受託者 (株)日本カストディ銀行	913	3.8
明治安田生命保険(相)	700	2.9
長瀬産業(株)	700	2.9
芙蓉総合リース(株)	522	2.2
ダイソーケミカル(株)	418	1.7
カーリット従業員持株会	405	1.7

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	定時株主総会および期末配当金 3月31日 中間配当金(実施する場合) 9月30日
単元株式数	100株
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目3番3号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目3番3号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部

	証券会社等で株式を保有されている場合	証券会社等で株式を保有されていない場合(特別口座の場合)
住所変更、株式配当金受取り方法の変更およびマイナンバーのお届けなどのお問い合わせ	お取引の証券会社等になります。	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行 証券代行部 ホームページ https://www.mizuho-tb.co.jp/daikou/index.html フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く 9:00~17:00)
未払配当金、その他当社株式関係書類についてのお問い合わせ	右記みずほ信託銀行までお問い合わせ願っています。	同上
株主総会資料の電子提供制度(書面交付請求)についてのお問い合わせ	電子提供制度専用ダイヤル 0120-524-324 (土・日・祝日を除く 9:00~17:00)	同上

ご注意	支払明細発行については、右の「特別口座の場合」のお問い合わせ先をご利用ください。	特別口座では、単元未満株式の買取・買増以外の株式売買はできません。株式の売買にあたっては、証券会社等に口座を開設し、株式の口座振替手続を行っていただく必要があります。
公告方法	電子公告によって行います。(https://www.carlithd.co.jp)ただし、事故その他止むを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。	
上場証券取引所	東京証券取引所 プライム市場	



株主通信

2025年3月期 報告書
(2024年4月1日—2025年3月31日)

- 01 事業領域
- 02 トップメッセージ
- 03 トップインタビュー
- 05 中期経営計画
- 07 セグメント概況
- 09 トピックス
- 10 連結財務ハイライト



証券コード 4275



1918年に「カーリット爆薬」の製造技術を導入して以来、カーリットグループは塩水の電気分解技術をもとに様々な製品を生み出し、人々の暮らしに貢献してきました。

現在は化学品セグメント、ボトリングセグメント、金属加工セグメント、エンジニアリングサービスセグメントの4つの事業領域を通じ、様々な製品・サービスを提供しています。

今後も幅広い事業領域の強みを活かし、社会から必要とされる製品・サービスの提供を通じて産業の発展と人々の豊かな暮らしを支えてまいります。

化学品セグメント

化薬分野 **C G**、受託評価分野 **H**、
化成品分野 **A I**、電子材料分野、
セラミック材料分野 **F**、
半導体用シリコンウェーハ、その他

ボトリングセグメント

ペットボトル飲料、缶飲料、委託品

金属加工セグメント

耐熱炉内用金物 **B**、
各種金属スプリングおよびプレス品 **E**

エンジニアリングサービスセグメント

建築・設備工事、塗料販売・塗装工事 **D**、
構造設計



株主の皆さまへ

**カーリットグループは社会に信頼される
企業グループとなるべく、
不断の努力と挑戦を続けてまいります。**

株主の皆さまには平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社グループの2024年度（2024年4月1日から2025年3月31日まで）が終了いたしましたので、決算の概要および今後の事業展開につきましてご報告申し上げます。

今年度につきましては、化薬分野や化成品分野、電子材料分野といった化学品セグメントやエンジニアリングサービスセグメントが好調に推移しました。一方で、人件費・エネルギーコストの上昇等が業績に対して下押し圧力となり、全体としては増収減益となりました。

また、2024年度は3か年の中期経営計画「Challenge2024」の最終年度となりました。2030年～2035年のありたい姿へ至る具体的な道筋として、「Challenge2024」を基盤強化のフェーズと位置付け、事業ポートフォリオの最適化に取り組んでまいりました。また、経営環境の変化に柔軟に対応することを目的にローリング方式にて中期経営計画の見直しを行い、「ローリングプラン2023」や「グローバルアッププラン2024」を策定してまいりました。

2025年3月には、2027年度までの3か年の新中期経営計画「Challenge2027」を発表いたしました。これからの3か年を投資促進のフェーズと位置付け、今後のカーリットグループを牽引すると期待される重点・注力・育成領域へ設備投資を実施するほか、人材戦略や財務戦略など諸施策の取り組みを推進してまいります。

株主の皆さまには、カーリットグループに引き続きお力添えを賜りたく、心よりお願い申し上げます。

代表取締役兼社長執行役員 **金子 洋文**



2025年4月より新中期経営計画

「Challenge2027」がスタートしました。

カーリットグループに課された

社会的使命を果たすべく、

成長戦略の実行を加速させてまいります。

代表取締役兼社長執行役員
金子 洋文

Q 2025年3月期の業績について教えてください。

2024年度は、全体として堅調な市場環境であったと振り返っています。化学品セグメントでは、紙パルプの漂白工程に使われる塩素酸ナトリウムや、ロケット固体推進薬原料である過塩素酸アンモニウム、電子部品向けの電解液や導電性高分子の販売は好調に推移しました。しかしながら、シリコンウェーハ分野では顧客の生産・在庫調整の影響を受け、ボトリングセグメントでは生産数量減少の影響を受け、減益となりました。販売好調な事業セグメント・分野においても、人件費・エネルギーコスト上昇等の影響を受け利益率が低下していることから、2024年度の連結営業利益は前年度には及ばず、30.4億円となりました。

最終年度となった中期経営計画「Challenge2024」の期初目標であった営業利益30億円は2年連続で達成することができましたが、再設定した営業利益目標38億円に対しては道半ばとなりました。

Q 3か年の中期経営計画「Challenge2024」が今年3月をもって終了しました。改めて、3年間での取り組みや成果について教えてください。

中期経営計画「Challenge2024」については、「事業ポートフォリオの最適化により企業価値の向上を目指す」を経営方針とし、5つの戦略を掲げておりました。

戦略1 「成長事業の加速化」については、成長領域に定めていたシリコンウェーハ分野や電子材料分野の市場環境が減速したことから、高付加価値品の展開や開発が遅れ、計画の見直しを余儀なくされました。

戦略2 「研究開発の拡充」については、開発分野を半数に絞り込むことで効率化をはかり、研究所を事業ポートフォリオにあわせた3拠点化するなど、新中期経営計画につながる取り組みを進めました。

戦略3 「既存事業の収益性改善」については、期初目標であった営業利益30億円は達成できましたが、利益性の向上、収益性の向上については道半ばとなりました。

戦略4 「ESG経営の高度化」については、健康経営優良法人の認定取得や太陽光発電システムの導入など、様々な取り組みを推進・実行しています。

戦略5 「事業インフラの再構築」については、IT環境の拡充に加え、カーリットホールディングス（株）、日本カーリット（株）、（株）シリコンテクノロジーの三社合併による事業持株会社体制へと見直しを実行しました。

以上の5つの戦略、そして事業ポートフォリオを意識した経営を推進した結果として、営業利益は2年連続で30億円を超えることができ、利益重視の取り組みが実現したと考えています。また設備投資においても、過塩素酸アンモニウムの増産工事に着手しつつ、既存事業群の老朽化更新などを着々と実行しました。

総じて、前中期経営計画では、既存事業にて営業利益30億円台を稼ぐ体質を作りつつ、新たなステージへとつながる投資に着手することができたと評価しています。

Q 3月には新中期経営計画「Challenge2027」を発表されました。本計画での戦略や、その先に描く将来像などがあれば教えてください。

長期成長ビジョンの中で、中期経営計画「Challenge2027」は「投資促進」ステージと定めています。「Challenge2024」によって稼げるようになったキャッシュを、新規設備、研究・

事業開発、人的資本へと投資し、2028年度からはじまる「収穫と飛躍」ステージへの準備をする計画です。

それぞれのステージごとに営業利益目標を定めており、2027年度には42億円を、「収穫と飛躍」にあたる2030年度には50億円、そして10年後にあたる2035年度には、60億円の営業利益を目指してまいります。

「Challenge2027」から、事業ポートフォリオの見直しを行いました。「育成領域」、「基盤領域」を改めて整理するとともに、新たに「重点領域」を定めました。重点領域は、さらなる収益の拡大を見込む注力事業と、注力領域への転換を期待する育成事業の両方の特徴をもつ領域です。

また「投資促進」にふさわしい投資計画を策定しております。中計期間中の設備投資総額は210億円と設定しており、特に重点領域となる過塩素酸アンモニウムの増産投資、宇宙・防衛固体推進薬の製造設備の新設には90億円の投資を計画しております。パイロットプラントから脱却し、本格生産設備への投資を進めることで固体推進薬の製造・量産を実現する計画です。将来的な宇宙開発市場の拡大、そして日本の空を守る防衛需要の拡大を見据え、「重点領域」として力を入れてまいります。

加えて、「Challenge2027」では「研究開発戦略」や「人材戦略」、「財務戦略」について計画しております。中計の各種取り組みの実行と達成を通じ、成長投資、社員への還元、株主還元をバランスよく実施してまいります。

創業100年を超えた当社が、次の100年を築いていくため、経営理念である「信頼と限りなき挑戦」のもと、常に新しいカーリットを目指してまいります。

■ 連結業績ハイライト

売上高

36,914百万円
(前期比0.9%増) ▲

営業利益

3,046百万円
(前期比9.1%減) ▼

経常利益

3,320百万円
(前期比7.8%減) ▼

親会社株主に帰属する
当期純利益

2,570百万円
(前期比1.1%減) ▼

長期展望・中期経営計画「Challenge2027」

2030～2035年の
ありたい姿

持続可能な社会に貢献するために、
"化学"と"技術"の力を合わせ、人びとの幸せな暮らしを支えたい

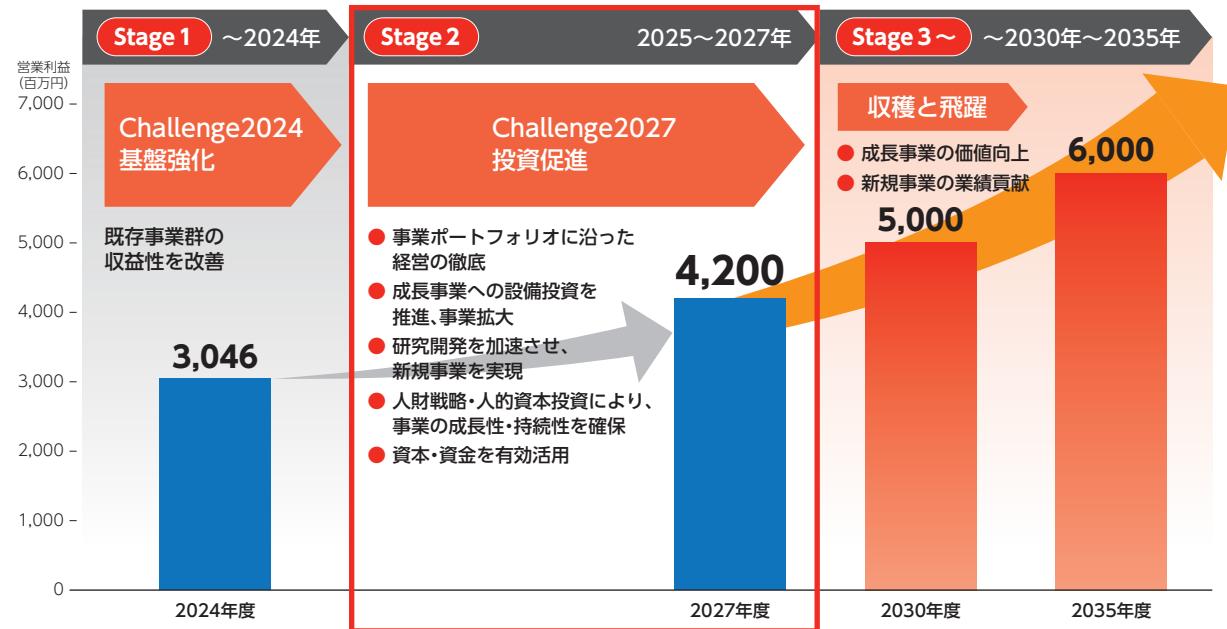
2030～2035年のありたい姿として「持続可能な社会に貢献するために、“化学”と“技術”の力を合わせ、人びとの幸せな暮らしを支えたい」を掲げています。

2030年に向けたStage2として中期経営計画「Challenge2027」を位置付け、「事業別成長戦略」、「研究開発による事業成長」、「成長を実現する人財戦略」、「財務戦略と資本収益性の向上」への取り組みを推進することで、ありたい姿の実現を目指してまいります。

●カーリットの成長ビジョン

2035年に向けた成長ビジョンと中期経営計画「Challenge2027」の位置付け

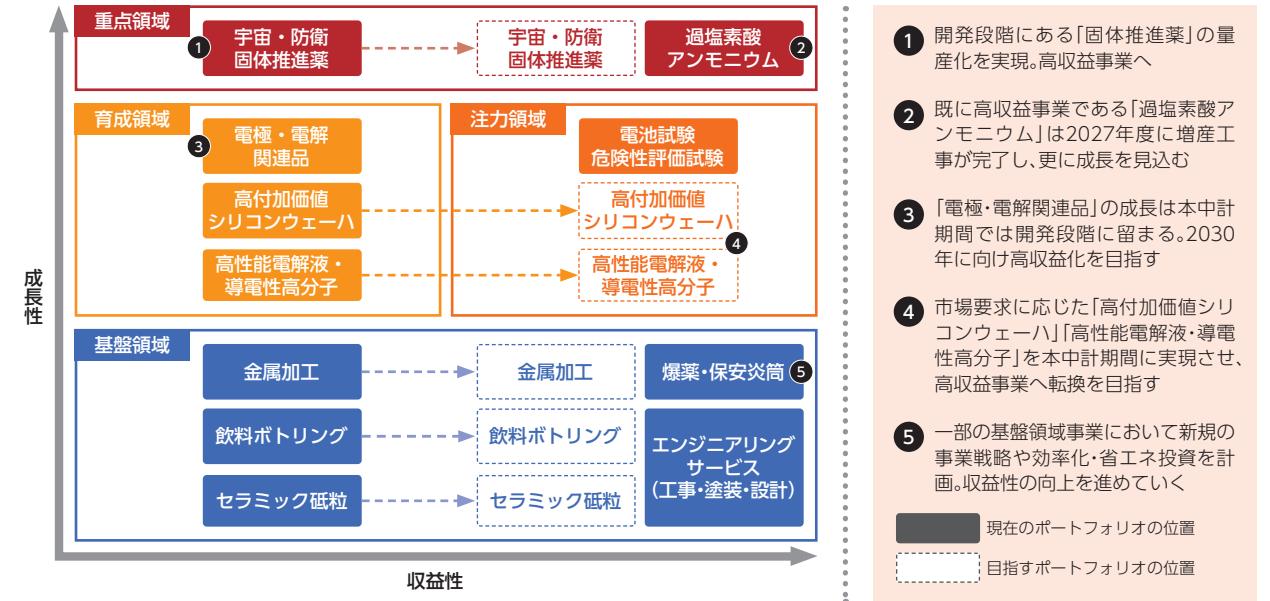
新中期経営計画「Challenge2027」は基盤強化期に既存事業で稼いだキャッシュを成長事業、研究開発・新規事業、人的資本へ投資し、「収穫と飛躍」に備えるフェーズと位置付けております。



●事業ポートフォリオの最適化

中期経営計画「Challenge2027」3年間における、最適化の考え方

「Challenge2024」期間の取り組みならびに内外環境の変化を踏まえ、事業ポートフォリオを見直しました。今後も事業ポートフォリオの最適化(事業の拡大、開発事業の実現)や外部環境変化に合わせ、見直しを進めてまいります。



- ① 開発段階にある「固体推進薬」の量産化を実現。高収益事業へ
- ② 既に高収益事業である「過塩素酸アンモニウム」は2027年度に増産工事が完了し、更に成長を見込む
- ③ 「電極・電解関連品」の成長は本中計期間では開発段階に留まる。2030年に向け高収益化を目指す
- ④ 市場要求に応じた「高付加価値シリコンウェーハ」「高性能電解液・導電性高分子」を本中計期間に実現させ、高収益事業へ転換を目指す
- ⑤ 一部の基盤領域事業において新規の事業戦略や効率化・省エネ投資を計画。収益性の向上を進めていく

●事業全体の収益計画

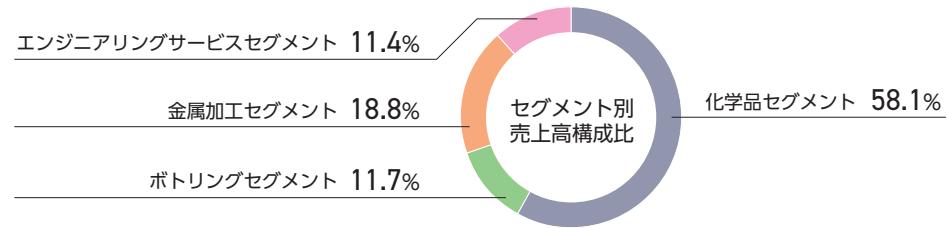
中期経営計画「Challenge2027」中における事業全体の成長計画

内外環境に注視し、リスクと機会に応じた事業ポートフォリオ経営を徹底。資本コストを意識したマネジメントの実践を続け、2030年の「収穫と飛躍」ステージに向け業績成長を目指してまいります。

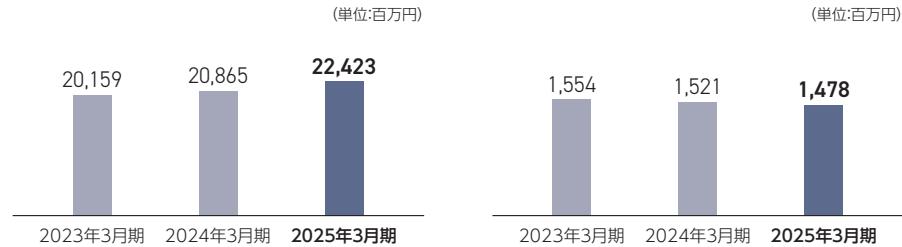
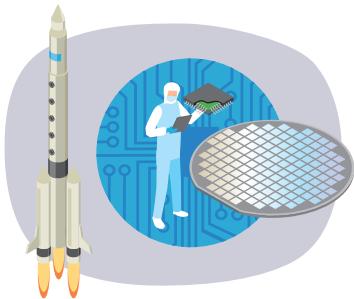
	2022年度	2023年度	2024年度*	Challenge2027
売上高	360億円	365億円	380億円	2027年度 420億円
営業利益	26.4億円	33.5億円	29.0億円	42億円
営業利益率	7.3%	9.1%	7.6%	10.0%
ROE	7.0%	7.4%	7.4%	8.5%

売上高増加分: 重点領域 +20億円, 注力領域 +10億円, 育成領域 +5億円, 基盤領域 +5億円

*計画策定時の数値



化学品セグメント



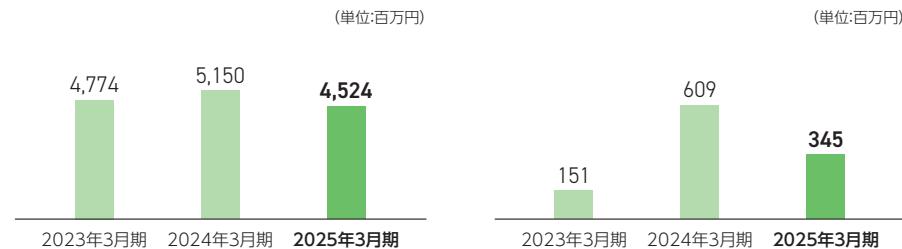
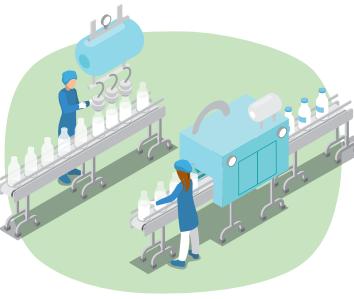
売上高 224.2億円

営業利益 14.7億円

POINT 受託評価分野は、各種研究開発市場の活況が続く中、危険性評価試験・電池試験ともに好調で増収増益となりました。また電子材料分野においても、EV市場の成長鈍化の影響を受けながらも、AIサーバー等の付随部品向け需要が堅調に推移したことで増収増益となりました。

一方、化薬分野では、自動車用緊急保安炎筒の売上高がほぼ横ばいで推移いたしましたが、生産コスト増加の影響で減益となりました。シリコンウェーハ分野においても、利益性の高い製品の販売が伸び悩み減益となり、化学品セグメント全体としては、増収減益となりました。

ボトリングセグメント



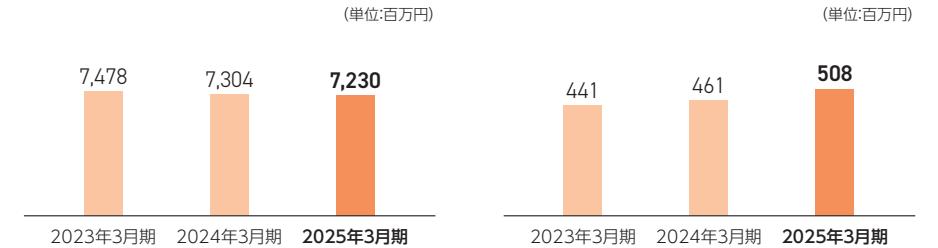
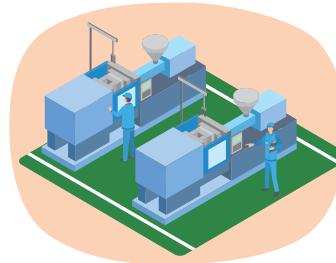
売上高 45.2億円

営業利益 3.4億円

POINT ペットボトル飲料は、第1四半期の定期修繕後の設備復旧の遅れ、および第3四半期の受注数量減少の影響により、減収減益となりました。

2024年度の業績につきましては、化学品セグメント（化薬分野、化成品分野、電子材料分野、セラミック材料分野）とエンジニアリングサービスセグメントの販売が好調に推移しました。しかしながら、化学品セグメントのシリコンウェーハ分野は顧客の生産・在庫調整の影響、ボトリングセグメントは工場の定期修繕の設備復旧の遅れおよび生産数量減少の影響を受け減益となりました。販売好調な事業セグメント・分野においても、人件費・エネルギーコスト上昇等の影響を受け利益率が低下していることから、全体としては増収減益となりました。

金属加工セグメント

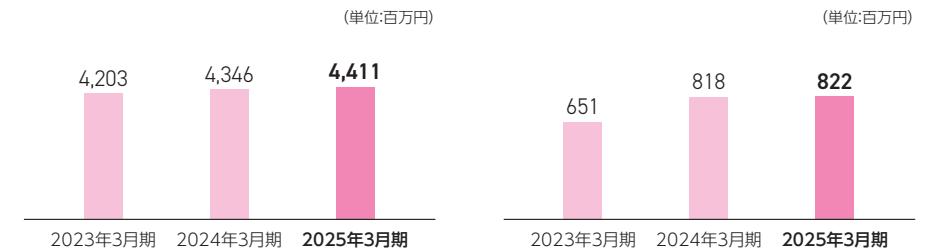


売上高 72.3億円

営業利益 5.0億円

POINT 耐熱炉内用金物のアンカー、集じん機用リテーナの販売が好調に推移し、増収増益となった一方で、各種金属スプリングおよびプレス品は、主要取引先（建設機械や自動車）の需要が落ち込み減収減益となり、金属加工セグメント全体としては減収増益となりました。

エンジニアリングサービスセグメント



売上高 44.1億円

営業利益 8.2億円

POINT 建築・設備工事は、外部工事獲得の競争環境激化が続いているものの、設備工事的増加により増収増益となりました。塗料販売・塗装工事は、塗料・設備販売の好調により増収となったものの、利益性の高い塗装業務において建設機械向けの需要が落ち込み、減益となりました。構造設計は、公共案件の獲得好調により増収増益となり、エンジニアリングサービスセグメント全体としては、増収増益となりました。

トピックス

ボトリング事業

(ジェーシーボトリング株式会社)

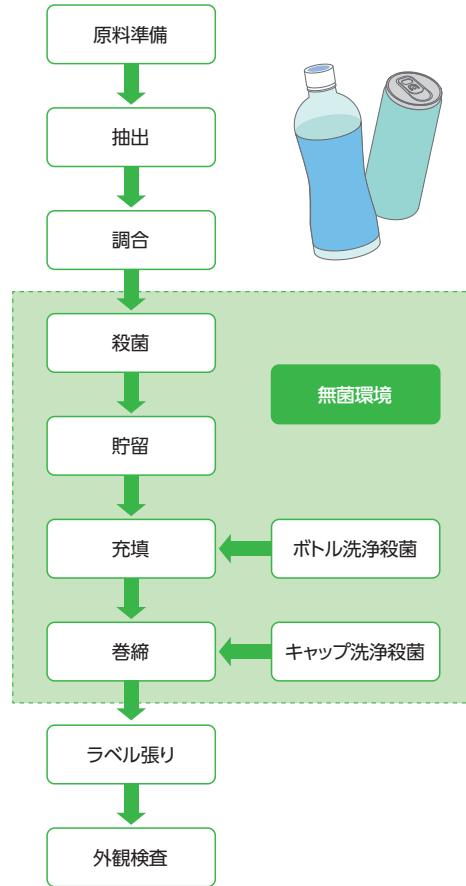
人々の暮らしを支えるボトリング事業

当社グループのジェーシーボトリング(株)では、群馬県渋川市内の工場にて、ペットボトル飲料や缶飲料の受託製造を行っています。茶系飲料やコーヒー缶など各種飲料の原料の調合から充填、包装、検査までの一貫した生産システムを備え、安全でおいしい飲料を皆さまに提供しています。

常温無菌充填ペットボトル製造ライン

ジェーシーボトリング(株)では、無菌環境下で常温充填が可能な製造ライン設備を備えています。ペットボトルやキャップなどの殺菌には薬剤を使用せずに温水で殺菌し、常温にて充填を行うため、軽量ボトルの活用が可能です。これにより、環境への負荷を抑えることができます。

生産能力は毎分600本の製造が可能で、年間になると900万ケースに該当します。



新製造ライン「アセプティック製造ライン」

ジェーシーボトリング(株)では、製造ラインの更新を予定しており、熱処理による殺菌が不要となり、無菌環境下で充填・巻締を行うことができる「アセプティックライン」の導入を2026年度に予定しております。高温短時間殺菌・常温で容器に充填するため、風味が良いこと、自社でペットボトルを成型することで旧ラインと比較すると大幅に使用エネルギーを削減することができ、ボトルの軽量化や輸送コストの削減にもつながり、年間で約3,000 tのCO₂排出量の削減に寄与する見込みです。

カーリットグループでは、今後も企業価値の向上およびカーボンニュートラルの実現に向け、様々な取り組みを進めてまいります。

連結財務ハイライト

(単位:百万円)

売上高
36,914 百万円 (前期比0.9%増)



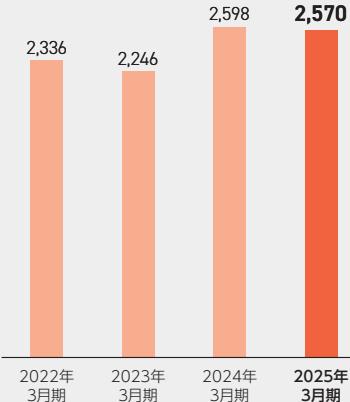
営業利益
3,046 百万円 (前期比9.1%減)



経常利益
3,320 百万円 (前期比7.8%減)



親会社株主に帰属する当期純利益
2,570 百万円 (前期比1.1%減)



連結貸借対照表

総資産		負債純資産	
2024年3月31日	55,146	2024年3月31日	55,146
2025年3月31日	53,012	2025年3月31日	53,012
流動資産	23,518	流動負債	11,149
固定資産	31,627	固定負債	7,221
		流動負債	9,935
		固定負債	5,597
		純資産	36,775
		純資産	37,479
前期末		前期末	
(2024年3月31日)		(2024年3月31日)	
当期末		当期末	
(2025年3月31日)		(2025年3月31日)	

連結キャッシュ・フロー計算書

